

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100850		
法人名	有限会社都和		
事業所名	グループホーム白壽		
所在地	038-3166 青森県つがる市木造福原印元61番地1		
自己評価作成日	平成26年8月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成26年9月11日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家族的チームワークを大切にしており、家庭的な雰囲気の中、利用者が自分らしい生活を過ごせるように支援している。</p>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>地域交流を図りながら地域の繋がりを大切にし、利用者が生活に生きがいを持てるように、レクリエーションや月1回の外出等の支援を積極的に行っている。グループホーム内は季節感がある装飾をしており、家庭的な雰囲気、利用者が生き生きと生活出来る様、支援されている。月1回の職員勉強会を行い、職員の資質向上を目指しながら日常のケアに取り組んでいる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との密接なつながりを常に念頭に入れた理念に基づき管理者、職員はチームで話し合い、業務にあたっている。	理念は玄関やホール内に掲示され、職員は理念の意義を理解し、振り返りを行いながら、日々の業務に取り組んでいる。また、家庭的な生活を送れるように、地域の繋がりを大切にしたい内容の理念である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民との挨拶、などを通しつながりの継続を持つことにより、事業所、地域との一体化をめざし地域の1住民だとの自覚を持ち、交流を図る。	近隣住民との交流を図り、挨拶や野菜の差し入れがあり良好な関係が築かれている。また、町内会にも入っており、年1回グループホームで行われる家族会・地域交流会に、地域の住民や小学生と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様はもちろん多方面の方々と機械あるごとに話し合いの場を作り、施設での実践を通して得た成果をもとに理解や支援を図る。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催。市役所、社協、家族、地域代表、住民代表などで情報交換、意見交換等を行い、サービス向上に活かす。	2ヶ月に1回開催し、町内会長、消防団、地域住民の代表、家族、市役所、社会福祉協議会、民生委員などの参加があり、入居情報、グループホームの取り組み状況等を報告し、意見交換も積極的に行われている。出された意見は職員会議で話し合い、改善に向け取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との報告、連絡、相談を密にし、情報交換し、相互間の柔軟性のあるつながりを持つように努める。	相談や報告があれば市役所に直接出向いたり、電話をするなど協力関係を築いている。運営推進会議にも市役所職員が積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修での成果を内部研修などで全職員で共有し、禁止の対象となる行為はもろろの事、個々の心身の負担となりつつあるような事例などはその時々を検討し適切なケアを継続、未然にすべての拘束防止に努める。	毎月1回の勉強会に、身体拘束についての勉強を取り入れ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。拘束しないケアを職員で検討し、それを実践している。また、マニュアルもあり、職員は禁止の対象になる行為を理解しながらケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係する研修には極力参加し、学んだ知識を職員全員で共有し、統一したケアの元、個々の心身状態をいち早く把握し、強要せず、負担にならないケアの実施に勤めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、他施設見学、自施設での実習を積み、報告会で質疑応答を受け、得た知識を職員全員で共有し、統一したケアでの実践、支援を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設代表、管理者、ケアマネ、で施設状況を説明し、それに対する家族の意見、疑問点などをたづね、理解、納得安心の上での契約締結を図る。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1年を通して実施される各イベントや、月数回の面会時などには必ず、意見、要望を聞きだし、書いて頂き、検討し運営に反映させる。	玄関には意見箱を設置し、家族からは年1回の家族会・交流会や面会時に、意見や要望を聞くようにしている。利用者からは普段の会話から聞くようにしており、出された意見等は随時、または月1回の職員会議で話し合い検討し、改善に向け取り組んでいる。	入居時に重要事項説明書で外部へ表せることがあることを説明しているが、それだけで終わらず、外部者へ表せる機会を作ったり、説明することで積極的に意見を引き出せると思うので、今後の取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議に、代表者、管理者、ケアマネ、全職員と参加し、運営に関する意見、提案を聞き、記録に残し、運営に反映させている。	月1回の職員会議で意見や提案、要望等を聞く機会があり、出された意見等は検討され運営に反映させている。会議の場以外でも、何かあれば毎朝の申し送り等でも話し合われ記録している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に意見を聞く機会を作り、職員の気づきや振り返りを大切に、やる気を高め、又職員同士が交流を深め、楽しく働く環境作りに心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人から経験者まで、職員の経験に応じて必要な研修を受けられるような体制を作っている。研修報告書を活用して、会議の時に発表の場を作り話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者、管理者が交流する機会を得た情報を職員に伝え、サービスの向上に取り組んでいる。又、同業者との職場見学会を職員が実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	多くの情報を提供して頂き、本人様はもちろん家族様のニーズを把握し安心して日々の生活が出来る様な関係づくりに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の疑問、ニーズを職員全員が統一した知識で聞きだし、気軽に相談を持ち掛けられるような関係を築くよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な話し合いを持つことによって、本人、家族様のニーズを把握し、適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしさを大切にし、出来る事をやっていたり、一緒に行く。たとえば自分の部屋の掃除や食事のしたごしらえや、味付けの相談などしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時に、要望や思い、又自宅に居た頃の生活習慣を聞き、こちらからはホームでの様子を伝え、その人らしく暮らせるように支援している。病院や外出などに同行してくれる家族もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年一回ある家族・地域交流会では、家族や親戚以外にも、近所の方々にもお誘いし来ていただいている。手紙や電話のやり取りを続けている利用者さんもある。	年1回の家族会・地域交流会に家族、近隣の住民などを招待したり、馴染みの美容院や墓参りに、家族の協力で外出したり、関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の悪い利用者さん同士、トラブルにならない様に、気配り・目配りし、さりげなく間に入り、一緒に会話やレクリエーションが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば相談や支援をする様努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望はもちろん、日常の会話や生活態度からも本人の思いをくみ取るようにし意向の把握に努めている。	本人からの要望や意向は普段の会話から把握するように努めている。困難な場合は、家族や本人の行動から思いを汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き出し職員全員で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の現状を常に把握するよう努め、個人の生活リズムを大事にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を聞いた上で職員全員で意見を出し、その時のニーズに合った介護計画を作成している。	介護計画書は6ヶ月の期間で作成し、モニタリングは1ヶ月毎に行っている。状態が変わればその都度見直しを行い、本人、家族から要望や意向を聞き、それをふまえて話し合いを行い介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録や健康記録、1か月毎の状況記録等職員全員で関わり情報を共有して実践や介護計画見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況を踏まえニーズに合った柔軟な支援やサービスを提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民や、各機関とも連絡を取り合い、協力をお願いしている。節目の挨拶や、回覧板を回す近隣住民とは顔なじみの関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望で、入所前からのかかりつけ医を継続している。入居者が安心して受診できる配慮をしてもらえる様支援している。受診後の報告も電話で行っている。	入居前のかかりつけ医を継続受診している。家族と一緒に受診することもあるが、受診後には必ず受診した結果を家族に電話で報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを行っている。入居者の体調に少しでも変化が見られる時には、再度バイタルチェックを行い、異常時看護師に連絡をとり、適切な受診・看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の希望を聞きながら、病院との連携を図り、早期退院に向けた情報交換をし、家族・医師・事業所との話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師も居り、夜間帯も連絡が取れる体制をとっている。終末期を迎えた場合に備え、看取り介護に向けたケアを行っている。看取りを行い、入所時、家族に説明し同意を得ている。	入居の際に、重度化や終末期についてできる事、できない事を、本人・家族に説明して同意を貰っているが、そうなった場合は、その都度家族や、本人と話し合いながら、方針を共有し支援している。また、看取りの体制も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、全職員が応急手当を行えるよう、職場研修をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立ち合いのもと職員、利用者さんで避難訓練実地している。地域住民にも協力を仰いでいる。職員、夜間想定も念頭に利用者さんを誘導している。	年2回、消防署立会いの下、日中想定のみならず、夜間想定も行っている。備蓄も用意され、地域住民にも協力を仰いでいる。	利用者・職員・家族の安心を更に深める為、今後、日中だけでなく、夜間想定や地震、水害等の訓練、また地域住民の協力が得られる訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解し、プライバシーの確保、プライドを傷付けず、希望に沿うように声がけを行い、細やかな気配りを持って対応している。	利用者一人ひとりの性格を把握することに努め、人格を否定しないケア、プライバシーを損ねないような声掛けや、対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの希望している事を、動作・声がけの表情を見極めて、自己決定できるような状況と、雰囲気を作る。一緒に考える余裕を持って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活のリズムを把握し、個人のペースに合わせて行動する。常に何をしたいのかを声がけし、本人の希望に応じた無理のない支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を一番に考え、季節に合った衣服を一緒に選択し、自信が持てるように声がけを行い、明るい気分になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下処理など職員とともに行い、味付けや調理法を利用者から聞き、個々の力を生かしている。また、行事等で変化のある食事も提供している。食器拭き、テーブル拭きなども、無理のない程度に行っている。	近隣住民から頂いた季節の野菜を使って料理し、下ごしらえ、味付け、テーブル拭き等を利用者と一緒に行い、職員も一緒に食事をし、会話が弾み、楽しみながら食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々に合った食事(お粥、刻み食、常食)を提供している。また、水分不足などにならない様、各自の摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人一人に声がけし口腔ケアをし、週2回はポリドント洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄を記録し、その人に合わせた、トイレ誘導を行っている。また、排泄パターンが出来た利用者には、リハパンから自パンツへ変更している。	排泄チェック表を用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせたトイレ誘導を行っている。紙パンツから布パンツに移行した利用者もあり、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操、身体を動かす目的でレクリエーションを行う。水分補給を促し、便秘解消を図る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴日を設けている。入浴日以外は希望があれば、足浴、清拭も行う。また、体調不良で入浴できない利用者には、足浴、清拭、衣類交換を行っている。	週3回の入浴日はあるが、希望や体調を見ながら、いつでも入浴できるようにしている。清拭や足浴等も行っており、清潔保持や入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムに合わせて自室にて休息を勧める。また夜間不眠の場合は職員と会話し、安心して過ごせる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の処方箋に全職員が目を通し、またいつでも確認出来る様に介護記録に備え付け、医療機関から支持のあった通り正しい服薬を状態観察行いながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さん一人一人の個性を見出しそれを最大限発揮できるよう手を差し伸べ、生きがいのある生活が出来る様支援する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人一人の希望に沿っていける様、支援している。月に一回、天候等の状況に合わせて、ドライブや外食等を行っている。	月1回は外出する計画を立て、利用者全員で外出している。また、利用者の希望があれば家族の協力で外出したり、通院時に立ち寄り等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理出来る範囲で所持してもらい、外出の際は買い物を楽しんだり出来る様支援し、出来ない人には意見を聞いて、代行の支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は時間帯に気をつけて自由に使用させている。掛けられない人には、職員が代わりにかけて会話出来る様支援している。手紙のやりとりも続けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさを調整しながらゆっくり、寛げる共有スペースを保つ様心がけている。季節に応じた掲示物等取り入れて、四季を感じられる空間づくりに配慮している。	共有スペースは、季節感がある装飾で、季節の花を飾ったりしている。また天窓から入る日の光が心地よく、ソファが置かれ利用者一人ひとりがゆったりとくつろげる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓、ソファ、畳のスペースがあり、自由に好きな場所を選んで過ごす事ができ、利用者一人一人が心地よい生活を送れる様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた生活用具、好んでいたものを持ち寄り、心地よい環境が整っている。また、家族の写真、思い出の写真も飾っている。	本人が自宅で使い慣れたものを、何でも持ち込むことができ、写真を飾ったり、本人に合わせた居室内の環境を作り、安心して居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内のバリアフリーはもちろん、各所に手すりを配置しており、利用者さんに安全で、快適に過ごせるよう支援している。		